NIE実践報告

1．タイトル：新聞は世の中をのぞく窓

2．学校名

佐野市立南中学校

3．実践者名（代表者名）

馬場秀典

4．学年

3年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

社会科　公民的領域　生徒数９４名

6．単元（本時の学習課題）名

情報化社会の中でどのように情報を得ればよいのだろう

7．目標(狙い)

高度な情報化社会の中で、メディアから主体的に情報を得る態度と実践力を育てる。

8．評価の視点

ＴＶなどの映像主体のメディアだけでは、伝わらない情報があることに気付き、他のメディアからも主体的に情報を得ようとする態度と実践力が育ったか。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

「第一部　現代社会と私たちの生活」の中の「情報化社会による生活の変化を考えよう」に３時間特設し、新聞を使って、切り抜き作品を作り、それを基に話し合う時間を設定した。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

1　前時に作成した、東日本大震災関連の新聞の切り抜き作品を、班で読み合う。
2　読んだ感想を付箋紙に書いて添付し、お互いに感想を伝え合う。
3　全員が読み終えたら、班ごとに、自分で記事をまとめてみての感想と、友達の作品を読んでみての感想をまとめる。その際に、ＴＶなどのメディアとの比較の視点を必ず入れる。
4　班ごとに感想を発表し、気づいたこと、考えたことをクラス全体で話し合う。
5　ＴＶやインターネット以外にたくさんのメディアがあり、その中から主体的にメディアを利用していくことの重要性を理解する。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

生徒が普段はあまり読んでいない新聞記事に、ＴＶなどでは報道されない事実がたくさん書かれていることに驚く生徒が多かった。翌日から気になった新聞記事に関する話題を話しかけてくる生徒も見られた。

12．成果と課題

・子どもたちが情報は、一面的なものではないことに気付き、新聞などの映像主体ではないメディアからも情報を得ることの重要性を理解することができた。
・理解した内容を、実践意欲を高めて日常的な行動に高めていくこと、および情報の多様性や多面性に気付き社会事象を多面的にとらえる見方考え方を育成していくことは、今後の課題である。